



有限会社吉田工業

vol.2

2023年2月15日発行





YOSHIDA TADAKATSU

吉田 忠克

(前編に続く)

後継者としての覚悟と意地
知識と技術をものにしてきた吉
田忠克代表取締役社長。これまで
最も印象に残る出来事は、東日本
大震災だといえます。当時を振り
返ると共に、会社への思い、そし
て有限会社吉田工業の未来につ
いて話を伺いました。

当時の様子を お聞かせください。

東日本大震災が発生した日は、
出張で石川県にいました。現場に
出ると、元請け会社の担当者か
ら、「ここでこんなことをしてい
る場合じゃないだろう」と一刻も
早く地元に戻るよう促され、途
中で食料や飲み物を調達しなが
ら、不安を胸に帰路についたので
す。避難先の体育館で妻と子ども
に会えたときには、安堵と切なさ
で何ともいえない気持ちになり
ましたね。

結局、石川県の現場は1か月以
上中断することになりました。そ
の間は地元の製紙会社の発電所
の復旧作業などに携わることに
なったものの、燃料物資が不足し

ていて、通うに通えない状況に。
すると、製紙会社のご厚意で燃料
を用意してもらえ、作業に取りか
かれることになったのです。当時
は立場関係なく皆が協力し合っ
て、何とかこの困難を乗り越えよ
うとの空気があり、まさにそのあ
らわれでした。

その後は福島第一 原子力発電所の 復興工事に尽力 されたそうですが、 どんな状況だったの でしょうか。

原発事故直後、元請け会社か
ら、「誰か緊急対応できる人を」と
頼まれ、社員に声をかけなければ
なりません。私も原発の現
場に行きたかったのですが、中途
半端になっていいる石川の案件を
放っておくわけにはいかず、「石
川が落ち着いたらそちらに行く
から」と、当時栃木に避難してい
る社員たちに無理をいってお願
いをしました。自らが避難しなけ
ればならないような状況にもか
かわらず、危険な現場に向かっ
てくれた社員たちの存在がなけれ

ば、今の吉田工業はありません。
当時原発事故の案件は、「1日作業すれば10万円もらえる」といった噂が流れ、お金目当てに来る作業員が後を絶たない状況にありました。しかし、吉田工業の社員はそのような考えで作業する者はおらず、会社としても随分助かりました。復興に向けて全力を尽くしてくれた社員たちを誇りに思います。

社員の皆さんの 印象や、社長として コミュニケーション の取り方で心がけて いることは ありますか。

根性がないとやっていけない仕事なので、社員は皆簡単には挫けないのが強みです。私は社長と社員は距離の近い関係がよいと思っており、何でもいいやすい環境作りを意識しています。思いつきでLINEを送ることもあり、誕生日には「おめでとう」と一言だけでも声をかける点を意識しています。

10年後の未来を 見据え、今後注力 したいことは 何ですか。

私は元請け会社にプレゼンテーションをする際、コスト勝負も1つのポイントかもしれないけれども、吉田工業は施工管理担当者から職人まで一括で用意できる、そういう組織を目指していることをお話ししています。私は会社を受け継いでからずっと、がむしゃらに仕事をしてきました。前期の売り上げは好調でしたが、無理をしすぎて、このままでは社員が壊れてしまう……との危機感を抱いています。そのため、今後は無理のない仕事の受け方をしていきたいと思っています。また、若手を育てていかなければ、この業界の担い手がいなくなってしまう。若い人に興味を持ってもらえるよう働きかけていくほか、若手育成のための採用の強化も会社の成長の鍵だと考えています。

人材育成についての 考えをお聞かせ ください。

現場での指導は何より大切です。現場と一緒に出て、そのシチュエーションに合ったフォローをする。まずは何でもやらせてみるのが大切です。組むのが難しい部品を1回組んでみせ、ばらして、同じようにやってみよう。吉田工業では、上に立つ人たちが自ら手を動かして一緒に作業するスタイル。それぞれの個性のよさを活かし、時代に合った教育方法を模索していくつもりです。

社員の皆さんに メッセージを お願いします。

頭領が現場に部隊を連れて行き出城を作るように、大きい礎を作ってほしいと思います。サムライスピリッツ、アグレッシブな気持ちを持ってほしい。お客様から、「吉田工業にお前がいるから仕事をやる」といわれるほどの存

在感を出していつてもらいたいと考えています。

若手社員の成長に期待を寄せます。吉田社長。この先、吉田工業はますます発展していくことでしょう。



企業情報

設立年：1987年5月12日

年商：21億円

※ 2022年3月時点



1月9日(月)

八幡神社にて安全祈願祭を 執り行いました!

2022年も皆さんの意識高い作業への取り組みにより、
重大なトラブルもなく、終わることができました!
2023年の無事故無災害、ノートラブル、そして
社員の皆さんの健康を幹部一同で祈願してきました!
今年も社員一丸となって、頑張っていきましょう!



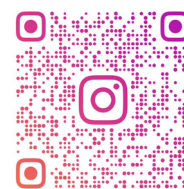
| Follow me! |



Instagram 始めました!

@_y.k.yoshida

日常の様子を日々更新中!



_Y.K.YOSHIDA

The "POWER" of the field.

現場のちから

15社以上の協力会社に関わる大きな工事ならではの特徴とは……?!厚海さんにこの現場ならではの大変なことと気をつけていることなどを詳しく伺いました!

現場の概要

放射線線量率、および空気中の放射線濃度の測定

現場名称：大熊中間貯蔵2-2期工事
住所：福島県双葉郡大熊町(広範囲におよぶ現場)
工事期間：2017年5月11日～2023年10月(予定)

当社以外の業者からも協力会社が15社ほど関わる大きめの工事で、当社メンバーは7名が携わっています。そのなかで私たちの担当は放射線線量率の測定と、空気中の放射線濃度の測定です。他の作業員が被爆限度を超えないための数値管理や周知を徹底して行っています。

現場の特徴

使用する機械は、シンチレーション検出器、GM計数管、粉塵測定器で、工事場所を区画で周りながら測定しています。そして作業現場の空間線量や粉塵を測ってデータ化し、作業員に周知を主に行っています。1日8～10件ほどの広範囲におよぶ区画に対して、3チームに分かれて行動。また管理区域という高濃度の土壌を扱う作業場があり、そこでは随時身体サーベイを実施しています。



粉塵測定器

※シンチレーション検出器……放射線と反応した際に光を生じる"シンチレータ"と呼ばれる物質を使って放射線を検知する測定器のこと
※GM計数管……放射線による気体の電離作用を利用して放射線の強さを測定する装置のこと

現場を円滑に進めるための社員育成に苦労

大人数が関わる現場では、十人十色で性格や気質も様々です。そのなかで、作業を円滑に進めるための伝達の仕方や教育の面では考えながら取り組みました。よく起こることとしては、指示内容を相手が納得できないこと、相手に正しく伝わっておらず口論になるなどです。意思疎通の難しさを痛感することも……また、これまで業務に関することのみ話していたことも反省し、プライベートに関する会話も積極的に取り入れるようにしています。このように相手の人となりも理解することで、今では作業がスムーズに進むようになりました。

復興部
中間貯蔵施設課
課長

あつみ あきら

厚海 彰さん



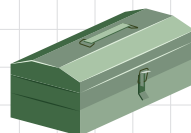
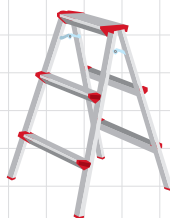
皆さんへメッセージ

仕事において、上手くいかないときやモチベーションが上がらないこともあるでしょう。そのようなときも妥協することなく納得いくまで行動してみて、スキルアップに繋げる気持ちを大切にされてはいかがでしょうか。

業務を遂行する上で気をつけていること

被爆を見逃さないよう慎重に

空気中の線量などに間違いがないか、的確に把握するよう留意しています。そのために放射線量を記録用紙に残し、二重三重にチェックをしながら、一人ひとり確認を徹底しています。そして残したデータはラミネート加工して、作業員の目に付く場所に貼り出して周知徹底します。これらは環境庁の方が視察に来られて目を通すものでもあり、誰が見ても間違いのないよう慎重な確認がマスト事項です。その他では、他社の方とのトラブルが発生しないように言葉遣いには気をつけるよう指導しています。



プロフェッショナル

俺の職人技

今回、社内を代表して2名のプロフェッショナルに、仕事のこだわりを教えてもらうとともに、若手の皆さんへメッセージをいただきました。道を極めて技を磨き続け、業務に邁進してきた方々の珠玉の言葉、ぜひ受け取ってください！



工事部
工事三課課長補佐

すずき かつや
鈴木 克也さん

顧客満足度を高める

鈴木さんの
こだわり

職人は技術があって当たり前。そこからさらに余裕を持って作業することを心がけています。余裕を持つことで焦りがなくなり、正確性、安全性、クオリティが高まります。結果、お客様が「仕事を依頼してよかった」と満足されて次にもつながります。

業務内容

工事三課は原子力施設にかかわる作業を行っています。そのなかで、現在私個人が直接関与している業務は福島第一原発の国家プロジェクト。主に福島第一原発1号機原子炉の格納容器の調査を行っています。

マイルーティン

工程管理と作業管理。あとは調査機器のメンテナンスです。調査機器を常に安全に原子炉内で稼働できるように、慎重に動作確認を行っています。

若手社員へのメッセージ

自分の方向性がわからない皆さんには早く目標を作してほしい！目標を定めると「どういう資格が必要か」、「何を極めるべきか」など進む道が見えてきます。社内には相談すれば的確なアドバイスをくれる頼れる先輩も多数います。目標を持って突き進んでください！

作業員の皆さんが安全に業務を行えるためのバックアップ

斎藤さんの
こだわり

危険な環境を排除し、現場に出て作業員に注意喚起を行う日々。ポイントは、現場を入念に視察することです。危ない箇所を見つけたら確実に作業員に伝えることで、安全な作業環境を構築することに務めています。

管工事課

さいとう まこと
斎藤 真さん



業務内容

当初は配管や配管サポートの溶接士として入社しましたが、今は施工管理をメインに取り組んでいます。主に担当している業務は、耐震補強工事の現場管理です。書類作成業務をはじめとして、現場監督とともに現場を取りまとめています。

マイルーティン

工事の質を高めるために毎日部品の状態を確認し、最新の図面をもとに現場監督と打ち合わせを行い、作業員に周知しています。特に部品チェックは必須です！

若手社員へのメッセージ

仕事のどこかに楽しさ、面白さを見つけることが最も大切です。辛いこともあると思いますが、楽しみを見つけていたら、ある程度の苦難は乗り越えられるでしょう！ちなみに私は今、楽しさよりも作業員の安全確保のために必死です(笑)

若手社員のココがすごい!

一緒に働く若手社員のすごいなと思うところを4名の方に教えていただきました!
皆さん、自分の若手時代と重ね合わせて見ているのではないのでしょうか?
若いからこそ一生懸命な姿勢、大事にしてほしいですね!



復興部 復興部
課長
おおうち まさる
大内 優さん



復興部
課長補佐
こぼり まさる
小堀 勝さん

すごいところ!

今の若い人達は、情報も豊富で何でも飲み込みが早く素晴らしいと思う日々です。私達アナログ世代とは違って、デジタルに強く、幅広い分野に優れているので、私達も勉強になります。ますます若手の皆さんには、頑張してほしいと思います。

すごいところ!

仕事に対する姿勢がとても素晴らしいと思っています。ある仕事を依頼したとき、些細なことでも連絡をくれたり、効率が良くなるようにと試行錯誤を重ねてくれたりと、預けた仕事に対して責任感をもってやってくれていると感心します!

実は密かに思っていること

今の若い人達の覚え方を、私達アナログ世代が簡単に学べるように素早く教えてほしいと思います。

実は密かに思っていること

長く同じ仕事をしていると、どうしても楽な方へと物事を簡単にとらえてしまいがちになります。先述したとおり、仕事への真摯な姿勢を見せられるとハッと初心に戻されることがあり、良い刺激になっています!

これからの業界を今の若い人達の活気溢れる力でどんどん進化させながら、私達アナログ世代の教えとコラボして素晴らしい未来に進んでほしいと思います。

これから長く仕事をやっている、少なからず何かやらかしてしまうことや、怒られることがあると思います。そこでやる気を失うのではなく、むしろそれを糧に、より良い仕事をしていただけるよう切に願っています!



大熊中間貯蔵 2-2期
やまもと あきひろ
山本 昭博さん

復興部
やない りょうこ
柳内 涼子さん



すごいところ!

昔はアナログが主流でしたが、今は機械もデジタルが大半でそれをちょっと教えてもらっただけで簡単に使いこなせてしまいます。すごいですね!

すごいところ!

やる気があって率先して仕事に取り組む真面目な姿勢がすごいと思います。

実は密かに思っていること

年配になると物覚えが悪く、工具類や人の名前を何回聞いても全然覚えられず、作業効率が悪くなりがちです。若い人はすぐに理解し何でもこなしてしまうので、作業効率も良くて羨ましく思います。

実は密かに思っていること

マンネリ化した仕事をしているとき、一生懸命な姿を見ると「頑張らなくちゃいけない!」と気付かれます。

上司や先輩が忙しいと、報連相がしづらいと思うかもしれませんが、報連相をすることにより、良いコミュニケーションを取って楽しい職場にしましょう~!

1日1つでも良いので仕事を覚えて一人前の作業員になってください!そのために私達も全力でサポートします。

